

概 況

1. 畜種別取扱高

平成13年中の東京都中央卸売市場食肉市場における畜産物の総取扱高は、9月のBSE（いわゆる狂牛病）の影響を受けて、取扱量を減らしている。頭数約42万5千頭、重量約8万5千トン、金額約844億4千万円となっており、前年と比べ、頭数で約9.2%減、重量で13.1%減、金額で約16.0%の減となった。

畜種別に見ると、牛の取扱高は、頭数約13万頭、重量約5万7千トン、金額約712億円で、前年比は頭数で12.0%減、重量で10.6%減、金額で17.6%の減であった。

豚の取扱高は頭数約29万4千頭、重量約2万8千トン、金額約131億1千万円となっており、前年比は頭数で7.8%減、重量で18.5%減、金額で8.5%の減であった。

（参照 表1）

2. 産地別取扱高

牛では、頭数・重量は千葉県が約2万頭、約8千トンを出荷し、前年に続き第1位であったが、千葉県の頭数は前年比で21.1%下回り、重量も20.1%の減少となった。

また、千葉県の食肉市場全体に占める割合（以下、この項において「構成割合」という）は、頭数で15.7%、重量で14.1%に及んでいる。頭数の第2位は栃木県、第3位は頭数で宮城県、重量では茨城県となっている。

金額では、栃木県が約111億円で第1位となり、構成割合は15.9%となっている。千葉県・栃木県・宮城県の上位3県に茨城県、福島県を加えた5県の構成割合は頭数で61.1%、重量で59.0%、金額で58.8%とそれぞれ全体の約6割を占めている。

輸入部分肉は、前年実績から重量で13.1%減少し、金額で14.4%減少した。また、豪州・米国の2カ国の輸入重量で全体の97.0%を占めている。

豚では、千葉県が頭数・重量・金額とも前年同様第1位となったが、前年と比べ頭数で16.1%・重量で15.6%・金額で4.0%それぞれ減少した。千葉県・茨城県・岩手県の上位3県の構成割合は、頭数67.0%、重量54.5%、金額51.1%とそれぞれ全体の約5~6割となっている。輸入部分肉の占める割合は、重量15.0%・金額20.7%となった。

（参照 表1~2）

3. 年間市況

牛の全国取引頭数（成牛）は、約110万1千頭で、対前年比15.1%減となっており、このうち東京都食肉市場の取引頭数は、約13万1千頭で全国取引頭数の11.9%を占めている。

東京都食肉市場における牛の年間平均価格は、1kg当たり1,232円で、前年に比べ106円（17.7%）安となっている。これを月別に見ると、1月は、1,344円と前年同月より14円高く始まり、以降9月上旬までは前年同月を上回り堅調な市況展開を見せていた。しかし、9月11日のBSE牛の発見以来市況は低迷し、前年比で9月7.2%安、10月15.9%安、11月23.3%安、12月48.3%安と販売の不振が市場の価格形成に大きな影響を与えた。

豚の全国取引頭数は、対前年比2.2%減の約1,634万6千頭となっており、このうち東京都食肉市場の取引頭数は、約29万4千頭で全国取引頭数の1.8%を占めている。

東京都食肉市場における豚の年間平均価格は、1kg当たり466円で前年に比べて50円（12.0%）高となっている。これを月別にみると、1月は442円と前年同月より130円高く始まり、2月~9月の期間は前年同月を下回る月もあったが、10月~12月は牛の不振の代替的に前年同月を大きく上回る高値で推移した。